

目標達成計画

作成日: 令和5年 11月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念や運営方針は、職員が常にこれを意識をして毎日の業務に当たれるように、時折申し送り時に唱和して確認したり、事務所などに掲示するなどの工夫を望む。	事業所の理念は運営方針と併せて入職時に説明をして業務に活かすことを求めているが、その後の日々の振り返りの取り組みが必要である。	「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら一人一人のその人らしさを大切にした生活を送る。」という事業所の理念は入居者様と家族様にも周知して頂く必要がある。エントランスや事務所、面談室、2階と4階のナースステーションに掲示し、時折唱和することで共有して実践に繋げることができる。	6ヶ月
2	33	契約時に事業所の終末期の対応を説明しているが、入居期間の長い利用者も増え、家族の看取り希望に応えるためにも医療関係者と連携した看取りの体制を整えることを期待する。	入居者様全員が最期をどのように迎えるかを個別に把握しておく必要がある。事前に入居者様(家族様)に書面で説明、同意を頂く。	看取りの指針は取り決めているが、現状の体制では受け入れが困難であることは入居契約時に家族様には説明している。できるだけ最期まで施設での生活を希望される入居者様に対して①往診医と訪問看護を利用し対応。②外部医療機関と連携した看取りの体制を整える。といった内容を書面で残す必要がある。	12ヶ月
3	4	地域に開かれた地域密着型の施設である、運営推進会議の開催意義と重要性を理解し、年6回、開催継続することを望む。開催に当たっては地域代表として自治会長などの参加も呼びかけることと会議録を参加者のみならず家族等にも配布することを望む。	年間を通して、入居者様やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や意見交換を行ない、サービス向上に活かすことができる。	5類感染症移行後は書面開催ではなく、施設開催が可能になった。地域包括支援センター職員、自治会長や地域住民、医療・介護従事者や入居者様の家族様にも呼びかけることを前提とする。参加が困難な方に対しては事前にアンケート等を配布し、声が聞けるように努める。	12ヶ月
4	35	1ユニットが2フロアと特殊な施設構造に対応した避難訓練を実施し、訓練実施記録を残すこと、また災害備蓄品はリスト化し、管理確認することを望む。	火災や地震、水害等のあらゆる災害を想定して対応できるように、日々の訓練と準備を行なう必要がある。	引き続き、業務継続計画(BCP)を含む災害計画に基づき、年2回の訓練と自己点検・避難経路のチェックを施行。災害備蓄品のリストを作成し、年数回の確認を行なう。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。